

## 2024年度 第2回 CPC研究会

日 時 : 6月21日(金)  
会 場 : 連合会館 201 会議室  
(〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-2-11)  
参加費 : 維持会員・大学官公庁関係=無料 / 非会員=30,000 円  
<http://cpc-society.org/>

13:30~14:55

### 「カーボンナノ材料によるテラヘルツ・光撮像シートと全方位画像分析応用」

中央大学 河野 行雄 氏

- 1) カーボンナノ光センサの検出原理と基本特性
- 2) センサアレイパターンニング
- 3) 多様な光撮像モジュール
- 4) 非破壊検査分析応用

観測対象を壊さず内部の異物や破損を検知する非破壊検査は、予期せぬ事故を防ぎ安全安心を確保するための重要な社会的ニーズとなっています。我々は、カーボンナノ材料の優れた電子・光学・機械特性を活かし、折り曲げ性・伸縮性のあるテラヘルツ・光撮像シートを開発しました。この技術により、3次元曲面を持つ物体の形状に合わせた画像化が可能となり、カスタマイズ自在な光撮像モジュールにつながりました。本講演では、センサの基礎から工業製品やインフラの非破壊検査応用にまで至る、近年の成果を紹介します。

15:05~16:30

### 「バイオ炭を使った農地炭素貯留と農作物のエコ・ブランド『クールベジ COOL VEGE TM』」

立命館大学 OIC 総合研究機構 柴田 晃 氏

- 1) はじめに
- 2) 日本の方針としての二酸化炭素削減目標
- 3) カーボンニュートラルとカーボンプラスに対するカーボンマイナス（炭素循環のおはなし）
- 4) バイオ炭を通じてのCDR(Carbon Dioxide Reduction)通称:Black Carbon
- 5) カーボンマイナスプロジェクト、バイオ炭における農業連携・商品の付加価値創出
- 6) バイオ炭利用による農地環境保全ブランド育成
- 7) バイオ炭の作り方
- 8) バイオ炭 J-クレジットプログラム(AG-004)申請と環境保全農作物のブランド化

バイオ炭が国際的に認知され始めたのは、2018年 IPCC 総会で採択された「1.5℃特別報告書(SR15)」に CDR 技術(手法)として明記されて以降です。

現状、日本国内ではバイオ炭によるカーボンクレジットは認められたものの、その製造・施用コストに見合ったバイオ炭クレジット価格での販売は難しいのが現状です。そこで、カーボンクレジット単独では経済的に合わないバイオ炭農地施用を促進するため、バイオ炭による農地施用を行った農作物つまりクールベジ(COOL VEGE)を考案しました。その農作物に環境付加価値をつけることで経済合理性を創出し、社会実装化に向けてモデル構築を行っています。

CPC 研究会 講演会事務局 行 e-mail: [sec@cpc-society.org](mailto:sec@cpc-society.org) または FAX: 03-6759-3981

6月21日の第2回研究会に参加します(連合会館 201 会議室)

お名前: 維持会員 非会員 大学関係

ご所属:

E-mail:

Tel: